

平成30年度 保健体育科 保健分野、体育理論 年間指導計画 第二学年（男子）

担当 長谷川 大祐

学期	月	単元名	時数	学習内容	評価の観点と評価規準				
					評価資料・評価方法等				
					関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解		
1 学期	4～7	スポーツが体と心に及ぼす効果	1	○運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できることを理解する。	○運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて関心を持ち、学習に積極的に取り組むことができる。	○運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて、学習した知識を活用したり、応用したりすることができる。	○運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて理解している。		
		スポーツと社会性	1	○運動やスポーツは、ルールやマナーについての合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解する。					
		スポーツの安全な行い方	1	○運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解する。					
2 学期	9～12	環境の変化と適応能力	1	○身体には、環境に対してある程度まで適応能力があることを理解する。 ○身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことを理解する。 ○快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解する。	○健康と環境について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。	○健康と環境について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、それらを表すことができる。	○身体の環境に対する適応能力や至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生管理について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。		
		活動に適する環境	1						
		室内の空気の衛生管理	1					○飲料水や空気は、健康と健康と密接なかわりがあることを理解する。 ○飲料水や空気を衛生的に保つには基準に適合するよう管理する必要があることを理解する。	
		飲料水の衛生管理	1						
		生活に伴う廃棄物の衛生管理	1						○人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解する。
		環境の汚染と保全	1						
3 学期	1～3	傷害の発生要因	1	○交通事故や自然災害などによる障害は、人的要因や環境要因などがかわって発生することを理解する。 ○交通事故などによる障害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解する。	○障害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。	○障害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができる。	○交通事故や自然災害などによる障害の発生要因やそれらによる障害の防止、応急手当について、課題解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。		
		交通事故の発生要因	1						
		交通事故の危険予測と回避	2						
		自然災害による危険と傷害の防止	1					○自然災害による障害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることを理解する。 ○自然災害による障害の多くは、災害に備えておくことを理解する。 ○安全に避難することによって防止できることを理解する。	
		応急手当の意義と心肺蘇生	2						○応急手当を適切に行うことによって障害の悪化を防止することができることを理解する。 ○応急手当には、心肺蘇生等があることを理解する。
		怪我の応急手当	2						
					評価資料・評価方法等				
					・学習活動の観察 ・提出物	・課題 ・小テスト ・学習活動の観察	・定期考査 ・小テスト		